Q　学校経営、学校改善を進める上で参考になることを教えてください。

A　学校経営上の方針・改善点について、職員会議や研修会等で話す機会はありましたが、思いが十分には伝わらないこともあったように思います。もちろん、管理職としての力量不足と言えるのでしょうが、そんな中で、忘れられないことがありました。

「学校評議員合同会議（現　学校運営協議会）」の席で、初めに学校側から取組について説明を行った際、一人の主任が、「学力が十分でない生徒や生活指導上の課題のある生徒が増加し、指導に苦労している」という主旨の発言を行いました。そのとき、ある評議員から、「できない子をできるようにする、生活面が良くなるよう指導をするのが教員の仕事である。そのために努力するのは当然ではないか。」といった意見が出されました。それを聞き、教職員の側に緊張感が走り、発言した主任は言葉に詰まってしまいました。おそらく、そのとき発言した主任は、「先生も大変ですね」といった反応を予期していたのであろうと思われます。学校・教員の意識と世間の意識との差を強く感じさせられる出来事でした。

私たちは、気付かぬうちに学校内部の論理に慣れてしまい、それを当然のことと捉えがちになっているのではないでしょうか。社会が学校を見る目には厳しいものがあります。学校への苦情や意見を管理職が受けることが多くありますが、そこには、鋭く学校課題に迫るものが含まれます。そのことを教職員に伝えることが必要です。私自身、どこかに甘えがあることに気付かされた出来事でしたし、先のように考える保護者の存在に応えられる学校にしなければいけないと考えさせられました。

学校改善のヒントは、こういった外部の声にあるのではないでしょうか。もちろん、取捨選択は必要ですが、うまく生かすことができれば、学校運営をしていくうえで大いに活用できると思います。授業改善のヒントが、児童生徒による「授業評価・アンケート」にあるように、学校運営・学校改善の手掛かりの一つは、評議員の意見や保護者による「学校評価」にあるように思います。

校種	全校種